愛國婦人會機關

愛國婦人

毎月二十日發行
一部金六錢　一ヶ月金　半年分參拾六錢　全國無郵送料
廣告料一行四拾錢
本號全部禁轉載
發行所 東京麹町區（牛ヶ淵公園）愛國婦人發行所
發行兼印刷人 山澤俊夫
編輯人 手島益雄

愛國婦人會の目的は軍人の遺族及癈兵を救護するにあり

社說

◎旅行（一）

五六歳の頃と覺ゆ、我れ尚郷里廣島に在りし時、一日突然懇意の者來りて、宮島に連れ行かんとの事なり。宮島は廣島より海上五里に過ぎざる所にて、其島山は目前に横はれども、未だ渡航せしことなく、たゞ舊暦の七月には嚴島神社に大祭ありて、廣島の主なる町々よりは御供船と稱する美事に飾り立てたる船を川に浮べ、囃船を隨へて賑かし、大祭の當日には宮島に漕ぎ行くの例にして、其御供船を見送り居れば、話し聞きし龍宮のこととも想はれて、宮島に行つて見たくて堪らず、船に乘り居る子供の幸多きを羨みしは、毎年のことなりしに、これはまた如何なる仕合ぞ、我れを其宮島に連れ行かんとは、此申出を聞きて、無上に嬉しく、難有く、立つても坐つても居れぬ程なりき。やがて船に乘りて行く途中も、樣々の想像を廻らして、五里の海上も千里の思ひに待遠く、漸く宮島に近づきて、始めて大鳥居を見たる時の嬉しさは兎ても言へず、夫より港に着きて、神社に詣て、廻廊の額を見、生きたる鹿の其所に居るを見、床まで潮の來るを見、轉じては千疊敷の廣きを見たるときは、最早や無宙にて、驚きと珍らしさとに、たゞ恍惚として、數十年後の今日之を筆にするさへ、尚當時の愉快にぞく〳〵するを覺ゆるほどなり。嗚呼子供を喜ばすは功德なり。而して旅に連れ行くほど子供の喜ぶものはあらず。此宮島行が人心地つきての始めの旅にて、これより旅といふものゝ味を覺へ、爾來學生時代の春夏二季の休暇は勿論、忙しき今日に至るまで、暇さへあらば旅行したく、出來れば必ずするなり。旅行の快樂と利益を擧ぐれば數へ盡しがたし。貝原益軒曰く

旅行して他郷にあそび、名勝の地、山水のうるはしき佳境にのぞめば、良心をも感じおこし、鄙吝をあらひすゝぐ助となれり。是も亦我が德をすゝめ、知をひろむるよすがなるべし。又いひしらぬ靈境にゆきて、見なれぬ山川のありさまを見て、目をあそばしめ、其の里人にあひて、其所の風土をとひ、あるは、おくまりたる山ふところに、いはねふみて、たづねいり、もとより山水の癖ありて、青山夢に入ることしきりなる人は、心をとめて、歸る事をわすれぬ。あるは、海べた山遠き眼界ひろきながめは、萬戸侯の富にまされり。又其の里におひ出てたる名產の異なる品を見て、其の味をこゝろむるも、いとめづらしく、心なぐさむわざなり。すべて勝地にあそびて、見きゝせし事、只一時の耳目を悦ばしむるのみならず、いく年へぬれど、其の時見聞せしありさま、老の後まで、をり〳〵おもひ出でられて、あたかも其の時見聞せし思ひをなして樂しむべし。是を以て世にめでたき事を思ひてと云ふも、うべなるかな（樂訓）

と。旅行の眞味說き得て遺憾なしといふべし。されば先づ旅行と極れば、出ぬ先より樂みにて、何くれと用意の忙しきも、苦にならず、いよ〳〵我が家を出でゝ旅の身となれば、日頃の心配面倒はさらりと忘れて恰も別人の如く、見るもの聞くものとして面白からぬはなく、動植物を觀ては、活ける天然の知識を得、城趾、戰場を訪れては、歷史の懷古を新にし、山の趣、川の流れを眺めては、地理の知識は勿論、俗人も詩想の起るを禁ぜざるべく、或は人情風俗の異なるに接しては、社會の複雜にして、生活の樣々なるを感ずべく、產物製品を見ては、これぞ國家富强の基なりと覺るべし、其他道中の馬子唄、田植、船車の乘合話など、いづれも興を催さゞるはなく、既に一日の道中に疲れて、夕刻宿に着けば、宿は我が爲め特別に出來たる如き氣持して、先づ湯に入りて、坐敷に通れば、鮮魚、膳に上りて、既に我れを待てり、團扇片手に、食べて、話して、笑ふて、湯に弛み、食に張りし身體を、臥床に横ふれば、話の尾は何時しか切れて、鼾聲轟々、釋迦も凡夫もなし。やがて一睡の夢醒めて、眼を開けば、曙光東に白み渡りて、霧尚屋後の山を罩め、前面の河身白布に似たり。神氣清爽、朝餐を喫し、結束して立つ。今日も我れは旅するなり。嗚呼旅は良いもの面白いものなり、旅行の愉快を知らぬ者は憐れなるかな。

◎婦人の使命

四方に使して、君命を辱めざるは、男子に於ても古來難しとする所、况んや婦人をや。今や有栖川宮妃殿下は、宮殿下と共に、遠く萬里の歐洲に使して、君命以上の効績を擧げ給ひ、此程御歸朝の途に就かせられたり。誠に婦人活動の模範。家庭に在て尚主命を辱むるものそれ三省せよ。

◎歸省

夏期休暇中は事情の許す限り、學生は歸省すべし。故郷の山水、舊故は笑つて卿等を迎ふべし。家には慈親あり、兄妹あり、其喜び如何ぞや。歸省は現世に於ける極樂の入門にして、兼ねて德性の涵養に至大の効力あり。ことに女學生か都門に淹留するは、百害あつて一利なし。夏休暇は殺風景なる机と腰掛の生活を去つて、情趣濃かなる家庭の生活に入る唯一の機會なり。宜しく母の膝下に於て、家事を見習ひ、弟妹の世話をなすべし。これ實に活ける學校に入り、活ける課業を修むるものにあらずや。

◎夏

夏は暑いに極つて居れど、今年ほど暑い夏はないとは毎年の言草なり。暑ければ何うするといふのか、聞きたきものなり。春はぽか〳〵と暖くて眠い、秋は霽いて氣が乘らぬ、夏は暑くて内に居られぬ、冬は寒くて手も足も出ぬといひ居らば、年中働く時はなきなり。怠惰なるものは、遁辭に窮せず。其遁辭を考ふる間に、正味の時間は立ちて、遁辭の出來たる頃には、最早働くの時間なく、丁度遁辭が間に合ふなり。

◎溫帶の住民

年中氷の山雪の峰を眺めて暮すエスキモー人の如きあり、金をも爍す熱地に喘ぐ印度人の如きもあり。日本の如き溫帶の住民は難有き者なり。夏の暑い位は我慢せざる可らず。况んや同胞出征軍人の滿洲の炎暑に惱みつゝあるに於てをや。

◎得手勝手

夏になれば冬が好いといひ、冬になれば夏がよいといふ。隨分人間は得手勝手なものなり。

◎氣の持方

暑いといふも氣の持方なり。仕事に興が乘つて無宙にならば、百度の暑氣も感ずるものにあらず。暑いのが邪魔になる中は、まだ心に弛みがあるなり。

◎奥村刀自の一行

本會評議員奥村刀自一行は、本會を代表して、今や滿洲にあり。想ふ其男まさりの氣象と燃ゆるが如き熱誠とを以て、如何に軍人を感激せしめ、奮起せしめ、流涕せしめ、慰安しつゝあるかを。刀自が杖をつきつゝ、颯爽たる風姿、軍中を往來するの狀睹るが如し。是實に活ける詩なり、畫なり。刀自の一行幸に健在なれ。

●無心の萬歲

出征三等軍醫正　大塚甲山

連戰連勝萬歲歡呼の裡には斯樣な萬歲もあるべしと、病床にて

父さんは　遠い御國で　戰して　佛さんになりました！

今日は佛さんの　父さんが　歸つて來るから　嬉しいよ!!

母樣〳〵　何故伯樣も　叔父樣も　父樣の萬歲を云はないの？

アレ〳〵汽車がつきました！　父さん萬歲　佛さん父さん萬々歲!!!

◎樺太占領の號外をみてよめる

中山幸子

もとよりもわが日の本のものなるをけふこゝのへににほふかちどき

◎樺太占領をことほきて　同

かはふとの海とくぬかに日のみはたかゝげていはふますらをのこゑ

本號には附錄として評議員長岡芳子山梨支部幹事石原登代子岡山支部幹事東園炳子三氏の肖像を添ふ

電話番町五百二十番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎夏期休業と戰時の女學生

▲娛樂半分實務半分▼

東洋女學校長 文學博士　村上專精

暑中休業中の女學生は如何なる事をしたが宜いかと云ふことに就ては、種々說もあるやうであるが、自分の考へでは先づ規律を正しくして愉快に休業日を送つて、來るべき學期に惰氣を生じないやうにすることが肝要であると思ふ

規律を正しくして愉快に日を送ると云ふことは如何なる事であるかと云ふと、夫れ〴〵の程度に應じて家庭に在るものもあらうし、または海濱や山間に避暑に出掛けるものもあるであらうが、其の何れにしても規律を紊してはならぬ、規律を紊すと總ての事が放縱になつて再び學校に出て來た時に學校でする事が窮屈で、勢ひ修學が面白くなくなつて、不勉强に陷り易い、故に休業中は家庭に在つても避暑に出掛けても、朝起きる時間、夜寢に就く時間などは一定して置いて、又凉しい間には復習などするも宜しい、要するに休みであるからと云つて、規律なしに遊ぶ事が惡いのである、勿論休業と云ふのであるから、無暗に勉强などはしなくても宜しい、氣に向いたなりにして消夏するのが宜いのであるが、今も云ふ規律のない消夏は斷じて排斥しなければならぬ、夫れが習慣になると容易に取り返しのつくものでない

扨處で如何にすればこの規律を正しくする事が出來るかと云ふに、夫れは日記を付けることが第一である、是れは休業中の日課として毎日々々怠らぬやうにして付けるのである、さうして是れを今度學校に來た時に教師に示すやうにすれば、不規律にした者が規律を正しく守つたやうなことを書いて置いても、直ぐ露顯する恐れがあるから、勢ひ規律を正しくするやうになる

斯くの如く規律々々と云つて正確に日記などを付けねばならぬやうになると、折角の休みは非常な窮屈なものになつて仕舞ふ、愉快の消夏は出來ないと云ふものがあるかも知れぬが、是れは前にも云へる如く、全體が休みと云ふのであるから敢て讀書をせよ、暑くつても凉しい場所へ行かず働けと云ふのではない、併し何にもせずに遊んで居ては惰氣を生ずるから、多くは望まぬから規律を立て〻何事をかするやうに仕度いと云ふのである其のする事に就ても餘り六ケ敷い、自分に愉快であると感じないことをすると厭きて仕舞つて何んの效果もないから、少しは娛樂の伴つた事をして、而して愉快に消夏するのが宜しい、其の娛樂の伴つた事では何にが宜いかと云へば、繪畫などは尤も女子に適當な事であると思ふ、夫れでこの學校などでは休業中に繪葉書の意匠をさす事にした、故鄉の山水を寫生して夫れを繪葉書にするなどは、娛樂とは云ふもの〻實際は美術心を養ふ上に於ても尠なからぬ效果があるのである世間では賤省女學生に對して出征軍人の遺家族を慰問したら宜からうなど云ふが彼等は未だ學生であつて、さう云ふ社會的の事業に手を出すのは早い、ならば母親に代つて家政の事を自分でして、斯う云ふ事は母親に任せた方が宜いと思ふ、兎に角休業と云ふ以上は規律を正しく愉快に消夏をするがよい、多く働らく者は多く遊ばねば、何事にも上達しない

▲規律を正しくせよ▼

本會評議員三輪田女學校長　三輪田眞佐子

私は暑中休業であるからと云つて、數十日に渉る長い日子を空費することは宜しくない、と思ふ、海水浴に行くとか、溫泉に行くとかの避暑旅行も決して惡い事ではない、身體も壯健にならうし、また其の土地の地理や歷史上の事を研究するにも至極よい事であると思ふが、何うも避暑旅行などをすると、旅行中には斯う云ふ研究もして見やう斯う云ふ書物も讀んで見やう等と極めて置いても、實際に夫れが行はれる事は少ないのである、要するに旅宿などで生活をして居ると萬事が不規則になつて、秩序と云ふ事を忘却して怠惰に流れ易いものである一度びこの怠惰の習慣が染み込むと容易に恢復が出來ない、夫れ故旅行をするにしても、歸省して家庭に在るにしても、ちやんと規律を立て〻是れを守るやうにしなければならぬ、夫れには日記を附けると云ふ事が至極よい事であつて、毎日々々した事を有の儘に記して置いて、夫れを教師に示すやうにすれば、自然不規律な事もしなくなれば、文章を書く事も達者になつて、一擧兩得と云ふ事になる、日記を附ける事を二三日怠つて置いて一度に附けたりしたものは、如何に筆を巧みにしても、他人が見ると直ぐに夫れが分かる、そこで毎日何うしても是れを附けねばならぬと云ふ習慣が生じて來る、この習慣は今日する事を明日に延ばさぬと云ふ勤勉の習慣になつて、將來如何に爲めになるか知れない

夫れから避暑旅行も規律が正しく守れるならばした方が宜いのであるが、夫れよりも私は家庭に在つて母を助けて洗濯物があれば洗濯もしやうし、裁縫するものがあれば裁縫もしやうし、また臺所の事も手傳つて、學校で習つた家政や料理の事を實地に應用して見る事が至極效果のある事と思ふ、尤も平常は學校にのみ在つて勉强をして居て、適にある休みであるから、學校に居た時と同樣に勉强するには及ばないが、休みだと云つて朝寢などをする習慣をつけてはならぬ、朝は疾く起きるの習慣をつけて、起きたら女子の事であるから拭き掃除の手傳をして、夫れから凉しい間に時間を極めて置いて復習でもして、暑い時間は氣儘に凉を入れて、其の間に母親の手助けになる事があれば夫れをなし、夕方には今も云ふ學校で習つた料理をして、一家打揃ふて食卓に對する、是れ程愉快な事はあるまい、而して夜になつて其の日一日にあつた事を大小となく日記に附けるやうにしたら、自然日記を附ける事も樂しみになつて來て、總ての事が規律正しく、愉快に消夏される事であると思ふ

▲家庭に光明を放て▼

本會評議員　鳩山春子

戰時の女學生が如何にこの夏期休暇を過す可きかに就ては、元より其の生活の程度に依り差異はありますが、まづ貧困ならぬ所謂中以上の家庭に於ては女學生は成べく其の家庭にあつて、家事の實行及び精神の修養訓練に努められん事を希望します、家事に立ち働く事は隨分時間の取れるものにて、平生は學校の課業に追はれ自然怠り勝ちになるものなるが、休暇中こそ是れを實行する好機なれば朝は早くより起き、酒掃洗濯庖廚の事を成べく秩序的に敏捷になすとゝ練習し、時間を巧みに利用して精神の修養となるべき宗教的の書物、及び善人名家の傳記高尙なる家庭小說を味ひ、尙ほ幾分の時間を上品なる唱歌又は樂器の練習に向け、而して如何なる事情の下にも不愉快不機嫌の顏をせず、周圍の人をして己れの存在は家庭に一光明を放つ感あらしむるやうに努められん事を希望致します

勿論事情が都合よいならば、幾分の時間を出征者の被服裁縫等に傾けらる〻も妙ならむが、要するに學生は將來有爲有益の人となり、戰爭に因て益々發展しつ〻ある我國運を助けられ得る人物にならむ爲めの準備時代なれば、其の人格を養ふを以て第一の義務と考へます

▲愛に溺る、勿れ▼

本會評議員　棚橋絢子

戰時の女學生とて別に是といふ際立つた事を望むわけにも行まいかと思はる、只女學生は平生どちらかといふと、學校に於て主に心の方を働かせて、運動に形式的に體操位をして居るから、幸ひ休暇中は實地運動旁親の手だすけをなすため、朝はとく起て庭掃除するも健康に益がある、夫より家事の手傳ひ洗濯解物等をなすがよろしい、併し中には假の休暇であるからとて後の爲をも考へず（往々女生に解物の順序もしらぬがある）、苟且に遊ばせ置くなどは愛に溺るといふものて、眞に子を愛するのではない、親たる人も此邊をよく〳〵注意してもらいたい、又時節柄些聊たりとも慈善事業の補助ともなるべき事をも身に應じてなすがよい、將た平常學科の短なる科目は時間を極め置き、研究するよーにしたいと思ふ、其他は臨機應變の働きをなす事肝要と思ふ

●十分談片　（記事輻輳の爲め本號休載）

◎滿洲遊說雜話

手島益雄

●短い演說　新橋を發して梅田驛に着するまでの重なる停車場には、支部の役員諸氏を始め會員が澤山に一行を迎へ且つ見送られた、奧村刀自は其の都度三分間位宛の演說をなして、感謝と希望とを陳べられ、見送人は非常に滿足の體に見受けられた

●婦人の萬歲　婦人は元來內氣で大きな聲はせぬものと思つて居たが、各停車場や神戶の波止場に於て、見送りの婦人達が萬歲々々と打揃ふて高聲を發せられたのは、實に稀らしいことである、併し是れ皆な愛國の至情顯はれてこ〻に至つたのであると思へば、予は言ひ知らぬ感に打たれざるを得なかつた

●會見　一行は大阪着後、評議員廣岡淺子氏方に二晚泊つた、奧村刀自と廣岡刀自との會合は實に際立つて見へた、其の對話は國家社會に對する事のみて、一毫の私の事に及ばざる、流石に二刀自の會合と感嘆の外はなかつた

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小説

◎小愛國者

若草譯

佛蘭西の汽船がバーセロナ港からゼノアに向つて出帆しました。船中には佛蘭西人や伊太利人、西班牙人や瑞西の人も居ました。此等の人々の外に、極みすぼらしい服裝をした、年の頃十二の少年が、唯一人で離れて居ました。此の少年はいかにも陰欝な眼つきて、凡てのものを睨みつけて居ましたが、其れには尤もな理由があることとて。

恰當二年許り前に、此少年の兩親は無慈悲にも、輕業師の一隊に彼を賣つたのであります。すると此の輕業師は打つたり蹴つたりして術を教へた揚句、食物も碌々食はせないで、佛蘭西だの西班牙だのと連れ廻はりました。西班牙のバーセロナに到着した時、少年は虐待と飢餓とに堪へきれないで、そつと逃げだして、伊太利の領事に保護を願い出でました。すると其の領事は大層此少年の境遇に同情しまして、此汽船に乘せ、伊太利のゼノアの役人に彼れを無慈悲な兩親の許に送り屆ける樣にと添書をしました。少年は二等船室に乘せて貰ひましたが、是れ迄種々と苦しめられた爲め、餘程衰弱つて居ました。

乘客の人々は何れも不思儀さうに凝視て居ました。彼れに問を發した人もありましたが、少年は默つて少しも答へず、却て人々を怨むが如く賤しむが如き樣子でありました。其れも構はないで、三人連の旅行者は種々の問を設けて終に少年をして口を開かせました。少年はベネチア、西班牙及び佛蘭西語の入り混つた極めて野卑な言葉で物語を始めました。此等三人の旅行者は伊太利人ではなかつたけれど、少年の言ふことは何うにか解りまして、一には同情から、一には一杯機嫌から、少年に金子を與へて今少し物語をする樣に迫りました。恰當其の時婦人連れが還入つて來ましたから、此三人は之を見よと言はない許りに、卓子の上でさら〳〵と音をさせながら、又金子を與れました。すると少年は凜然とした容貌をして、低い聲で禮を述べながら、金子をポッケットに收めました。やがて彼は自分の寢床に上つて幕を引きおろし、自分の身上に付いて考へながら静かに横になりました。

此金子で、二年の間碌々に食事もしなかつた代りに、味い物を食べることも出來。又長い間ぼろ〳〵の着物を着て居た代りに、新しいシャケットを買ふことも出來。又無一文で我が家に歸つたよりも、此金子を持つて歸れば兩親もやさしくしてくれるであらう….。

實に此の金子は少年によりては一角の身代でありました。少年は寢床の上で此等の空想を胸に走らせて樂んで居ました。此の間先の三人連れの旅行者は、二等室の客間で卓子を圍み、何にくれとなく會話を續けて居ました、三人は酒を飲みながら、彼等が實見した諸國の事など互に議論しまして、話頭は其れから此れと移り變つて、遂に伊太利の事に及びました。一人は旅館の不足を述べ、一人は鐵道の不平を語り、三人は彼れ一言、此れ一言、伊太利の種々な惡口を並べたて、甲が伊太利人は愚な國民であると言ふと、乙は伊太利の役人は字を知らない、又賤しい國民であると附け加へる、それから丙は泥坊と言はふとして「ドロ」といひ終らない内に、疾風の樣に金子が三人の肩や頭の上に飛んで來ました。三人は吃驚して立ち上がり、見廻はして居ますと、又恰當三人の顔に一握の銅貨が飛んで來ました。少年は寢床の幕の間から顔を出し、傲然として「呉れた金子は返へしてやる…私は自分の國を侮辱する樣な奴から金子なんざ受取らねぞ」と言ひ放ちました。（完）

◎伊太利の女傑

郭公生

婦人の戰場は家庭なり、然れども時宜に依りては三尺の劍を提げて佛國を救ひしジャン、ダークを學ばざるべからず、伊太利の建國者ガリバルヂーの夫人アニタリヴエロの如きは即ち其の一人にして、實に稀世の女丈夫なりき。

アニタは紀元壹千八百二十八年南米サンタカザリナに生る、この地元熱帶國にして文化進まず、住民皆な淳朴の風を存せり、アニタはこの別天地に生れて遠く濁世と離れ、無垢なると天女の如くにして成長したり、時にガリバルヂー二十六歳、南米の流浪中ブラジルに反對したるリヲクランドの共和軍に與みして「イタバリカ」と號する軍艦に乘組み、サンタカザリナの海岸に碇泊中アニタと奇縁を結びたり、アニタは是れより拾餘年間良人に隨つて數度の戰場に臨み、彈丸雨飛の間自ら銃を執りて戰ひけるが、アタクリーの戰は實にアニタをして非常なる苦痛を與へたり、當時アニタは姙娠して臨月なるにも拘らず騎馬して軍に隨ひしに不運にして騎馬を倒されしかば、ロスバトスジョンの牧舍に入りてこゝにて一兒メツチを擧げぬ、而も陣中嬰兒に被らしむべき一の衣服すらなく、爲めに良人は洪水を冒して是れを求むべく他に赴きし後へ、敵は此の隱家を探知して襲ひ來れり、氣丈のアニタは嬰兒を懷にして馬に跨り、森林の中に難を遁れて良人の救を待てり、是れより先きガリバルヂーは途次遙かに砲聲を聞きて倉皇必要品を整へ、歸りてアニタの跡を追ひ、漸やくにして森林中に邂逅したり、時恰も霖雨の候に際して全地沼の如く、出產後間もなく嬰兒を懷にし、馬に跨りてこゝに遁れしアニタの苦痛は實に非常のものなりき、然れどもアニタは其の嬰兒を氣遣ひて良人と二三回語を交へし外、また一言の自個が苦痛に云ひ及ばざりしと、以て尋常の婦人に非ざるを推知すべし。

斯くしてアニタは一男一女を擧げ、良人と共に紀元壹千八百四十八年伊太利に歸り獨立軍に從ひしが、同五十三年熱病に侵されて遂にアドリアチックの海岸に、良人の腕に縋りつゝ、嫣然たる微笑を現世の名殘として、空しく黃泉の客となれり、時に齡僅かに二十六歳。

ガリバルヂーは敵の追擊急なるを以て、假にアニタの遺骸を近傍の森林中に埋め後亂平くに及びてニースに迎へ葬れり、嗚呼稀世の女丈夫、今や青苔滑かなる無言の碑下静かに眠ると雖も、其の名は良人と共に千歳の下猶ほ朽ちぬぞかし。

◎女子の敵愾心

須藤求馬

臆病未練は我が武士道の尤も恥辱とする所にして、女子も尚ほこれを唾棄して室を同うするを喜ばず、女子と雖とも氣慨ある者は、身を殺して子夫を激勵たるもの古今其例乏しからず、幸田彥右衛門原元辰の母等著名のものたり。

慶長の昔木下長嘯子の室は、森家の女にして、才器衆に勝れし女性なり、勝俊に嫁して女子一人を產み、常に言へるやうは、人、生死も一寸、また善惡も一寸萬の事皆一寸なり、これを知る者は心に滯ることなしと、勝俊は若狹八萬石餘を食み小濱城に居る、慶長五年豐臣秀頼の命を受けて、伏見城松丸廓を守る、大阪の役起るに及て、私に謂へらく、余秀頼に於て親戚たり、而して今や東西難相起る、東すれば親を離れ、西すれば姻に叛くと、心兩端を持して決せず、城中危み疑ふ、會々鳥居元忠使者を以て謂はしめて曰く、聞くが如くんば卿の弟秀秋來りて城を圍むと、然らば則ち昆弟の親內外に在り、衆心或は疑懼れん、請ふ郭を致して去れと、勝俊猶豫して決せず、時に或る人謂ふ、勝俊を殺して以て衆心を固うすべしと、勝俊之れを聞き大に懼れ、兵を率ゐ夜京師に奔る、時に小濱の留後兵を率ゐ東軍に抗す、事平くに及びて封を奪はる、乃ち京都東山に潜居し、名を更めて長嘯子と稱し、是れより歌道に游樂の身となりしを、此の內室父祖の勇武を受け繼きて、齒がみをなし、夫の武道柔弱にして、伏見を去りしを悔しき事に思ひ、離別の暇を乞ひ、髮を斬て夫の方に贈りて尼となり、此の歌を詠み

命やは浮名にかへて何ならん
　まみえぬ爲におくる黑髮

かくて京の村雲といふ所に住し、實泉院と號す、烈婦といふべし。こは武士の妻室さもあるべし。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

衞生小說

令孃の議論

糸左近

「試驗前は幾晩も徹夜致しました爲、最うクニャ〳〵に弱つて了ひましたの、けれど御陰樣で優等點を得たものですから、父母も大層喜んでくれまして、おや御褒美に一月御前の好な處へ避暑させてやるから、十分に腦を休ませて來いとのこと、て私も明朝早々日光へ出懸ようと思ひますが、就いては貴女も是非行らつしやいな、ね－烈子さん。」

いふ言葉も未だ終らぬ中に、烈子は例の凉しい眼に、一種の威嚴を浮べて、

「私國子さんの樣な自墮落は致しませぬ。」

「これア承はりませう、何が自墮落です、諺にも能く勉る者は能く遊ぶといふぢやありませぬか。」

「其諺は失禮ながら、貴女には當嵌りませぬ、貴女は惡しく勉めて惡しく遊ぶのです、言換ますれば不衞生の極端です、さア其譯は腦も身體の一部分でせう、適度に使ひますれば使ひます程發達するは筋肉と同じ道理であります、然るに貴女は過度に使つて其の揚句に一月も更に使はずに居れば、丁度水車の如く働いてゐた人力車夫が肩休ぢやといつて、一ヶ月も遊ぶやうなものです、筋肉は次第に痩せて、俄に梶棒を取る勇氣は出ませぬ。」

「腦の御議論はそれとしても、塵埃の多い此の暑い都を去つて、日光は華嚴の瀧に三伏の熱を洗ひながら、絶えず書見をしてゐましたら、これ程衞生に適つた道は無いぢやありませぬか。」

「それが此上も無い不衞生と思ひます、炎威赫々たる印度の國でも、寒氣凛々たる西比利亞の地でも、其處に進んでる民は、皆腹鼓を叩いてゐて、其處を去れば當分の中は健康を害します、貴女は東京生てせう、東京を去つて何が衞生に適ふもんですか、それよりは流るべき汗は流して、御庭の御掃除でもなさいませよ、深窓の御孃樣では戰時の奥樣にはなれませぬからね、それはさうと、心の避暑は裏店でも出來ますよ、ね－國子さん斯んな失禮な言、他の方なら申しませんの、何うぞ御許し下さいましな。」

「實に私の思違でありました、百二十度の炎熱を物ともせぬ滿州の武夫を思ひますと、斯んな暑さ位を彼是言つては、皇御國の婦人とは申されますまい。」

「さうですとも、彼の避暑に行らつしやる人達を想像して見ますれば、一定の仕事が無いから、自然と、朝寢夜深し晝寢間食といふやうにならうと思はれます、けれど又斯うも考へますの、女とても草鞋穿て、日に四里でも五里でも、身分相應に歩きながら、山水の景色を尋ねますのなら、身體の保養にもなりますし、愉快は又格別でありませう。」

是非來年はさう致しませう。」

*　*　*

明治は三十九年七月廿日の「愛國婦人」に「乙女の行脚」と題したる記事が掲げてあつたさうだが、知らず何れの乙女か、聞かまほしく。

◎子供の玩具

久津見蕨村

◉子供に玩具は必要であります。必要であるから、色々の玩具が製造されてあります。玩具屋の見世へ參つて見ますと夫れは〳〵種々樣々のがあつて、大人でも目移りがして、何れが宜いか迷ふ程に澤山あることは皆樣御承知の通りである。

◉併し此澤山ある玩具は何れも是れも皆子供の爲になるものばかりで。ありませう乎と謂ふに、決してそうではない。中には子供に取つて宜しくないのがあります。親御衆は之れを選んで子供衆にお與へなさらなければならぬ。

◉夫れならは如何いふ玩具を選んで宜いかと聞ふに、千百とある玩具のことですから、一々之れが宜い彼れが惡いと品評をすることは六づかしいが、大體は斯うであります。

◉代價が高いからと申して、夫れが必ず子供の爲になるものだとは定まつてをりません。ですから代價の高下は玩具の良否を定める標準とはなりません。

◉子供の爲になる玩具と申しますと、先づ大體自働的のものであります。と申しても餘り込入つた器械で出來たものを云ふのではありません。「起上り小法師」のやうな類で、極めて簡單な仕掛で自と動くやうに出來たものであります。之は自から獨立自動の心を子供に養はせる一端になります。

◉併し夫れもブリキや硝子で造つたものは宜くありません。子供に取つて危險だから、之は成るべく避けたいものです。護謨製が最も宜い、それに次ぎては木竹で造つたものであります。

◉護謨人形は最も適當の玩具であります。此玩具は疊の上に立ちます。握みましても踏みましても、又元の通りになります。自から獨立自活、艱難にも困苦にも敗けない精神を現はしてをります。子供は之を弄ぶ間に知らず識らず忍耐の心が養はれます。

◉少し子供の知恵が附いてまゐりましてからは、積木などは勿論よろしうございますが、未だ手に持つものを嘗めたがる中は、玩具の着色に注意せねばなりません。今では警察が八釜しく申しますから、有毒の色料を使つてはありますまいが、どうかすると不注意の玩具屋があります。可愛い子供衆を賊ふてはなりませんから。

◎最も改良されたる臺所

（評議員近藤從子氏宅の臺所實見）

◉明るく出來て居る　臺所に案内を受けて第一に目に付いたのは臺所が明るく出來て居るの一事である四方が硝子張りて窓の外には鼠などが入らぬやうに金網が張つてある天井には三ヶ所の天窓が明けて市中の湯屋の天井のやうに上を狹く下を廣くしてある窓は硝子で覆ふてあつて天氣のよい日には硝子が開くと同時に金網が覆はる仕掛が栓で出來て居る

◉清潔に出來て居る　白木作りで新らしいからでもあるが餘程清潔に出來て居る特に工風されたるは總て戸棚主義を應用されて總て物を入れ鉋丁の如き柄だけは外に出て中身は箱の中に這入り俎板も矢張り箱の中に納めるやうに出來て居る布巾の如きは皆流しの上に竿を横たへ是れに丁寧にかけてある

◉餘り廣くはない　臺所は家に比較して餘り廣くはない日本建て三間に四間位ゐのものであるが日本料理間と西洋料理の間と硝子障子で區別して餘程手際に出來て居るのである

◉流しの工風　流しの作り方が一番氣が利いて居る流しの數は床の上だけて都合三ヶ所あるが水道栓を右の方に付け一尺巾の溝を流しの向側に付け其中は恰も小川が滾々として盡ず流れるが如くにしてある夜はこれに蓋をする又た西洋料理の方は流しの下に工風が出來て塵埃の出る方と水の出る方と二つに別れて肥料に適當なものは別莊の田圃に送るやうになつて流しは皆三尺高さで其下には流し場に用ゆるものを入れる戸棚が付いて居る置き場所も一つの分は中央に置て四方から使用されるやうになつて居る

◉床の下　床が高くなつて段梯子が二ヶ所について居る床の下は皆セメントで固めてこれに野菜類等も貯へ大隈伯邸の臺所のやうに矢張り水を流通さして清潔になつて居る料理は皆上でするから庭は僅かに二疊敷の外ないが皆花崗石を疊みて水道栓が床の庭に付いて水で洗ふやうな仕掛けになつて居る

◉戸棚の工風　戸棚が數々に作つてあつて其戸棚の中に又た抽出があつて其抽出の中が又た區別されて總て部類別けになつて秩序よく入れてある一の分は八百屋もので稚茸かんてん、等一切入れてある一の方には皿や木皿がある手の屆かぬやうな上部にも又た戸棚が出來て足臺をして取るやうになつて居る其戸棚の後に一の工風が出來て壁を打ち拔きて小虫さへ這入らぬ金網を張つた小さな窓が幾つも出來て外部から清涼なる空氣を此戸棚の中に入れるやうに作つてある

◉配膳棚の工風　一人の男が庫の方から袋に入れた大きな板を持つて來た三尺巾で一間の朱塗り板が二枚其中から出て直ちに配膳棚が出來たが是れが三組程あつて四五十人の位には不足のないやう何處でも組立てると出來るやうになつて居るのを見て其輕便に感じた

◉西洋料理室　日本料理室の方が廣くて西洋料理室の方が狹いが此にも一の工風が出來て居る瓦斯栓に火をつけると直ちに水が湯になつて流れて出る其傍らに矢張り戸棚がある其中には瓦斯線が引張つてあつて皿を温めるさうして其の上部にまで温みが回りて肉の冷ないやうな巧妙な工風がしてある

◎泰西婦女訓

◉聖アントニー曰く他人を愛するは自ら生活する也と蓋し愛は善の普遍的原則也

◉同情は人道を飾るものにして愛は實に其れと同意義也而して愛は女子の生命也

◉困苦に沈める寡婦孤兒貧者を見舞ひ救恤せんには總て精神的の慈悲と愛とを要す

◉女子をして最高尚なる位地に昇らしむる者は教育に非して優しき同情に在り

◉子女を教育するに腕力若くは恐嚇の助を假りて子女の意志を破壞すること勿れ

◉動物に對する數多慘酷の行爲の多くは家庭に於て受けたる肉體的刑罰に歸因す

◉貧困に處すとも愛ある家庭は幸福也愛なき家庭は萬の富あるも常に悲愁絶へず

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

今回米國大統領令嬢アリス、ルーズベルト氏來遊に付ては役員有志に於て歡迎會開催のことに決定致候間御贊成の役員方は來る二十四日迄に本部宛御通知有之度此段廣告候也
但し會費は金壹圓五拾錢以上貳圓迄の豫定に候開催場所日時等は確定次第御通知可致候
明治三十八年七月
愛國婦人會役員中

●評議員例會日取　七月中に於ける評議員例會は左の如し
七月廿六日（第四水曜日、午前九時）

●海外職員の囑托　去月十六日總裁妃殿下の御名を以て左の諸氏は海外職員を囑托せられたり
シヤートル委員部長　久水和歌子、仝部顧問　從六位久水三郎、桑港委員部長　上野トク子、仝部顧問　從六位上野季三郎、布哇委員部長　齋藤豐子、仝部顧問　正六位齋藤幹、平壤委員部長　新庄志賀子、仝部顧問　新庄順貞、木浦委員部長　若松りう子、仝部顧問　從六位若松兎三郎、馬山委員部長　三浦喜代子、仝部顧問　正七位三浦彌五郎、上海委員部長　小田切桂子、仝部顧問正六位小田切萬壽之助

●鹿兒島支部總會　鹿兒島支部第三回總會は去る六月二十五日同市山下町鶴鳴館に於て開會したり出席者千餘人にして顧問千頭知事來賓前田正名兩氏の演説あり次に主事の事務報告あり次に御諭旨朗讀支部長の答辭ありて閉會し餘興には琴、胡弓、蓄音器等の餘興あり終つて公園に於て園遊會を開き福引等の催しありて盛會を極めたり尚ほ同支部六月二十日現在の會員は三千二百四十三人贊助員百七十九人にして三十七年十一月より本年六月四日迄の總收入金は貳千六百四拾壹圓五拾五錢なりと

●香川支部の發展　香川支部に於ては會務擴張を謀るには專ら男子たる役員の力を藉らざるべからずとて去る三日部內各幹事部事務員を召集し小野田顧問より右に關する演説あり尚ほ支部細則改正草案其他會務取扱上に關する事項の協議を遂げたるが此際豫定會員七千人を增募すると共に會務整理を督勵する筈なりと

●函館支部發會式　函館支部發會式は來る二十五日を以て擧行する筈なり

●統計表臨時調製　統計表臨時調製に就て各支部に於ける統計表臨時調製の必要有り本部にては既に右に關する記入用紙を各支部に送附したり尚ほ同統計の記入事項は左の如くにして六月末調とし來る八月三十一日迄に本部に到達するやう申添たりと

（會員）特別、通常會員（各終身會員內譯）及贊助員、備有功章者人員の調査
（會計の部）會員醵金、贊助費寄附金品（品物は個數及其代價）等本會の收入となるべき金品全部高及支部基本金總高、支部の經費收支等
（救護成績の部）軍人遺族、癈兵救護の數及吊慰數及金額
（事務の部）支部、幹事部總會、評議員職員會合の數及支部幹事部職員及（委員囑托員も含む）等種類別人員數

●米國婦人の寄附　男爵岩崎久彌氏より左記米國婦人の寄附金紹介ありたり

謹啓陳は米國ペンシルベニヤ州ウエン市マリヤンウヲルシ孃より別紙の通り申越候に付金四千四百六拾七圓七拾六錢貴會へ寄附致候間同人意志貫徹致候樣可然御取計被下度御依賴申上候ウヲルシ一家の義は維新前より近年まで横濱及神戶に於てウヲルシホール商會と號し（俗に亞米一と稱し候）盛に商工業を營み加ふるに神戶に於ける製紙所の創立者にして其名は普く中外に知られ尚同一家は從來吾國に對し特に深厚なる同情を抱き我商工業の發達に付資する所多大に有之候右得貴意度如此に御座候敬具

明治三十八年六月廿四日　岩崎久彌

愛國婦人會宛

追伸乍御手數前文金員御受領證はマリヤン、ウヲルシ孃宛御差越被下度此段添て申上候

拜啓陳は貴國現下の戰爭に於て國家の爲め戰死を遂げ候勇敢なる兵士の寡婦孤兒にして最も賑恤の必要を認められ候者に對し茲に金四千四百六拾七圓七拾六錢差出候間御手數恐縮に候へ共昔年よりの御緣故に依り右寄贈方可然御配慮被成下度御依賴申上候左候へば亡兄トーマス、ウヲルシ及ジョン、ジー、ウヲルシ並に昨年死去仕候妹カロリン、ウヲルシ等生前の意志にも相叶ひ私に於ても誠に滿足致候事に御座候間希望相遂し候樣御盡力被下候はゞ幸甚の至りに存候
右御依賴申上度草々謹言

千九百五年五月五日
米國ペンシルベニヤ州ウエン市
アップランドエイ二百二十五番地
マリヤン、ウヲルシ

男爵岩崎久彌樣

●奥村刀自一行　奥村刀自の一行は去る十七日午後六時無事天に著したり

●本會募集扇子寄贈者　其後恤兵扇子百本以上の寄贈者左の如し

千本	富山縣	下新川郡會員一同
五百八十三本	岩手縣	稗貫郡中有志
五百本	富山縣	下新川郡魚津町會員
四百五十四本	岩手縣	氣仙郡濱田村有志
四百十九本	同	同氣仙村有志
三百六十一本	富山縣	氷見郡會員中
三百三十六本	埼玉縣	大宮尋常高等小學校生徒
三百二本	岩手縣	江刺郡福岡村有志
三百本	埼玉縣	横田つれ
二百四十六本	岩手縣	氣仙郡越喜村有志
貳百貳十本	同	岩手郡厨川村有志
貳百四本	高知縣	香美郡宮地鮭其他
貳百本	富山縣	氷見郡氷見町會員
貳百本	埼玉縣	鈴木やす子
百七十五本	高知縣	吾川郡會員
百七十貳本	埼玉縣	[illegible]尋常高等小學校生徒
百五十八本	岩手縣	紫波郡日詰町有志
百五十本	同	片倉組大宮製糸所女工中
百四十三本	岩手縣	氣仙郡日頃市村有志
百三十九本	同	同盛町有志
百貳十本	高知縣	長岡郡十市村婦人會
百貳十本	岩手縣	二戸郡福岡町有志
百十六本	同	東盤井郡藤澤村有志
百十本	同	同松川村有志
百九本	同	同興田村有志
百八本	同	盛岡市仁王小路有志
百四本	同	上閉伊郡遠野町有志

百本宛

埼玉縣	丸山寧太郎
埼玉縣	石田マン
北海道	中島サタ子
	中田済次郎
富山縣	店員會中
京都市	黒住教會中
埼玉縣	野中うら子
埼玉縣	原喜利
埼玉縣	田島サヲ
埼玉縣	清水近太郎
埼玉縣	根岸公子
北海道	泉谷ミツ子
北海道	白井政奈
	西和報義會員
岩手縣	小田島文顯
熊本縣	江藤そて子
埼玉縣	四川武左衛門
埼玉縣	櫻本トミ
埼玉縣	島野伊左衛門

●埼玉支部會員募集　仝支部に於ては戰局の發展に伴ひ戰死廢兵の增加せると各府縣の狀況に參照するに今後の施設經營上大に遺憾なき能はずとて各職員東奔西走會員募集に盡力したる結果四千六百餘名を得たるが尚ほ不日一万人の會員となさんとて各郡有志家へ支部長より勸誘狀を發し大に擴張に勸めつゝあり

●恤兵扇子府縣別　本會募集の戰地及傷病兵に寄贈の扇子惣數貳拾三万貳千六百五拾本となり戰地送りの分は陸海軍に拾五万九千本寄贈濟其他は本月中に夫々寄贈の筈なり而して各支部別左の如し

埼玉	五万三千二百九十一本
鹿兒島	三万三千六十一本
京都	一万九千九百卄一本
岩手	一万二千五百六十八本
北海道	六千拾六本
千葉	三千六百三十二本
滋賀	二千四百三十八本
山口	千九百二十一本
神奈川	千三百四十四本
山形	千百七十四本
長野	千四十六本
秋田	七百十二本
奈良	五百四十三本
東京	三万七千百十五本
廣島	二万千五十三本
熊本	壹万三千九百卅八本
高知	七千十二本
富山	三千八百八十一本
福島	二千四百九十一本
兵庫	千六百四十二本
宮崎	千三百六十九本
福井	千二百四十七本
佐賀	千百二十本
愛知	七百八十四本
栃木	六百三十二本

右の外百本以上五百本未滿は岡山、群馬、島根、靜岡、大阪、德島、新潟、島根、三重、和歌山、鳥取の十一支部及海外其他は何れも百本未滿なり因に富山大分兩支部にては既に扇子を募集し所管師團へ直に寄贈せりと云ふ

●正誤　前號有功章贈與と題する項中二等有功章贈與者、岡田銈子とあるは岡田銈子の誤植に付きこゝに訂正す、又た去る四月二日の發行號外中一等章山梨支部長仝顧問とあるは共に二等章の誤植に付き訂正す

愛國婦人會各支部會員數並に女子人口比較表（明治三十八年六月盡日調）

支部名	特別會員	通常會員	計	明治卅六年末女子人口	女子人口百人に付會員比例	贊助員
山口	八〇七	二六、一七八	二六、九八五	五〇六、九二〇	五、三三	一、〇〇五
石川	一、三〇六	一四、九八九	一六、二九五	三八五、四七八	四、二三	七二六
山形	七三八	一五、五〇六	一六、二四四	四三九、六一八	三、七〇	一一八
岡山	九二六	一七、四〇八	一八、三三四	五七七、二七二	三、一八	[illegible]
京都	九三七	一三、八五一	一四、七六八	五二〇、三九三	二、八四	[illegible]
愛知	一、〇九五	二二、二四〇	二三、三三五	八六八、五二五	二、六九	六一四
富山	七〇三	九、六〇二	一〇、三〇五	三八四、九八二	二、六八	六〇八
兵庫	一、九五五	二一、五二六	[illegible]	[illegible]	二、六二	三九八
函館	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
熊本	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
宮城	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
長崎	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
神奈川	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
高知	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
岩手	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
滋賀	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
福井	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
三重	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
奈良	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
大阪	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
宮崎	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
愛媛	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
北海道	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
香川	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
大分	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
福岡	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
德島	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
青森	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
廣島	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
東京	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
千葉	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
佐賀	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
山梨	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
島根	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
茨城	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
鳥取	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
埼玉	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
福島	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
秋田	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
沖繩	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
岐阜	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
鹿兒島	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
長野	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
靜岡	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
群馬	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
新潟	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
臺灣	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
和歌山	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
栃木	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
海外	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
計	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

（備考）北海道支部管轄は北海道一圓より函館區を除きたるものなり
●臺灣は臺南、臺中、臺北の三支部を合したる數にして三支部會員數別は臺南二千百九十二人、臺北千四百三十九人餘は臺中支部會員なり
●六月盡日調報告未着の支部は最近の報告に據る
●支部の配列は會員比較數の多き支部より漸次掲載したり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

時事

●樺太を占領す　北遣艦隊は去る七日午後一時敵の抵抗を受けずして豫定の上陸地點を占領し陸戰隊をして上陸せしめまた是れと同時に陸軍隊も上陸して翌八日早朝コルサコフを占領し數多の戰利品ありたり尚ほ我軍には損害なし

●全權委員親任と出發　去る三日小村壽太郎（外務大臣）高平小五郎（在駐米國公使）の二氏講和全權委員を仰せ付けられ翌四日佐藤愛麿（辨理公使）山座圓次郎（外務省政務局長）安達峯一郎（公使館一等書記官兼外務省參事官）本多熊太郎（外務書記官兼外務大臣秘書官）小西孝太郎（外交官補）の五氏隨行を命ぜられ一行は八日横濱を出帆渡米の途に上られたり

◎米國貴賓の一行　米國大統領の令孃アリス、ルーズベルト孃及び陸軍タフト氏並に有名なるカーネギー氏令孃の一行は來る二十五日横濱着のマンチュリア號にて來着直ちに入京の筈なり

活動界

◎模範的女學生　夏期休業中歸省せざる寄宿舍生は奈何に取締るべきかと云ふに就ては各學校とも區々の方針を執り居れるが中に青山女學院の生徒は同校の斡旋に依り毎年休業中は家庭敎師、筆耕、奥女中、保姆等夫れ〳〵の職に就き居れりと白砂青松の地を探りて悠々九十日間の長き日子を空費する當今多くの女學生以て範とするに足らん

◎女子傳習生募集　東京郵便局に於て女子傳習生を募集す志願者は來る二十五日までに願書差出すべし資格は滿十三年以上二十年以下試驗科目は讀書、作文、算術、筆蹟、地理、理科の六科にて高等小學卒業程度に依る

敎育界

◎新潟の下婢學校　下婢學校は未だ岡山及び新潟の二市に一個宛の設立を見たるのみなるが今新潟市に於ける狀況を聞くに同校は同市婦人敎育會の經營に係るものにして女子高等小學校を借受けて敎室に充て毎土曜日の午後八時より二時間修身、讀方、綴方、算術を授くるの規定なるが昨年四月開場以來成績頗る良好なりと而も其の費用は一ケ年僅かに五拾圓に過ぎずと云ふ因に地方に於てさへこの企てあるに吾が首都東京に未だ此種學校の設立なきは大に憾みなしとせず吾人は同情に富める婦人諸氏の力に依りて速かに是れが計畫あらんとを望む尚此程長岡新潟及び高田の婦人團體の招聘を受けて同縣に赴きたる下田次郎氏の話によれば同縣の婦人は一體に活氣ありて女子の敎育始め其他の事業に於ても模範とすべきもの尠からずといふ

◎女子英語夏期學校　本郷區彌生町櫻井女塾主櫻井親子氏は明二十一日より八月二十一日まで標題の如き學校を開き高橋五郎英人ハリスの兩氏を聘して女子に普通及び高等の英語を敎授する由なるが入學志願者は現住所を記したる名刺一枚を差出す丈けにて別に規定なしとぞ

◎洗濯法講習會　共立女子職業學校にては來る八月一日より向ふ二週間（第一期）同月十六日より二週間（第二期）洗濯法講習會を開く科目は衣類選擇の方法及び其の實技にて授業料は金壹圓なり

●戸板裁縫女學校　芝區三田四國町なる同校に於ては明二十一日より八月二日まで毎日午前九時より十二時まで五時間和服裁縫、洋服裁縫、撮細工、造花、編物等の夏期講習會を開く筈なり

◎女學校と恤兵事業

昨年二月始めて征露の役起りてより本年六月までの間に於て東京各女學校生徒及び職員一同が裁縫の時間に冬期夏期用の襦袢と袴下とを無代にて仕立て上げたる實數は冬服の部九千三百七拾五組夏服の部二千六百六拾七組なるが此の仕立代金は壹千三百五拾四圓三拾九錢にて悉く陸軍の恤兵部に寄贈されたるものなり今擔當せし各女學校を擧ぐれば左の如し

校名	冬夏服	金額
東京裁縫女學校	二〇〇〇	二二〇、〇〇〇
第三高等女學校	一九五五	二一五、五〇〇
第一高等女學校	一五〇〇	一六五、〇〇〇
第二高等女學校	六〇〇	六〇、〇〇〇
日本女子大學	一〇〇〇	一一〇、〇〇〇
共立女子職業學校	七〇〇	七七、〇〇〇
女子高等師範學校	六六〇	六六、〇〇〇
東京女學館	六六〇	六六、〇〇〇
日本女學校	五〇〇	六六、〇〇〇
女子師範學校	五五〇	六五、五〇〇
東京私立高等女學校	七五〇	四四、〇〇五
女子美術學校	四〇七	三九、五九九
和洋裁縫女學校	三五〇	三八、五〇〇
三輪田高等女學校	三〇〇	三三、〇〇〇
家政學校	三〇〇	三三、〇〇〇
成女學校	二一八	二三、九八〇
青山女學院	一九〇	一九、八〇〇
淑徳女學校	一五〇	五、五〇〇

慈善界

●善良なる事業　愛國婦人會山梨支部幹事齋田久子山田さだ子外數氏は水晶、甲斐絹、眞綿、打栗、コロ柿等同地の物産にかゝるものを各其の本御店に交渉して原價にて販賣するの約を結び之れを薄利を以て需要者に取次ぎ利益金全部を各慈善團體に分與しつゝあり今回同支部に於て設立したる遺族授産所（麥稈經木眞田編製）へも金貳拾圓を寄贈したりとのことなるが右に要する費用は一切自辨しつゝありとは實に奇特の至りなり

◎軍人家族慰問會　神田區今川小路一二三の三ケ町有志婦人より成れる今川小路婦人同仁會にては此程同區神保神社々務所内に軍人家族六百余名を招待して慰問會を開き神田區長小川[illegible]氏の講話、佐々木近衛步兵中尉の實戰談に引續き餘興として落語、蓄音器、演劇等ありて盛會を極めたるが尚ほ當日は出征軍人家族へ夫れ〳〵慰問品を贈與したり

◎貴婦人の慰問　築地本願寺の令女敎會は東京眞宗婦人會を代表して會長毛利公爵母堂を始め數十名の貴婦人去十二日澁谷豫備病院分院を慰問し「心の鏡」と題する冊子を配附し毛利會長は特に自作の和歌を摺入れたる扇子を贈られたり

◎博士婦人連の美擧　笠井工學博士、松崎法學博士、下瀬工學博士外五名の博士夫人達は濱尾新氏夫人作子氏と共に小石川區の出征軍人慰問に奔走し居らるゝとは夙に世人の知れる所なるが笠井松崎の兩夫人は此程受持區域なる水道町外數ケ町の出征軍人家族四十四人に對して中形の浴衣一反づゝを自ら各戸を訪問の上特別に贈與せられたりと云ふ

◎無報酬看護婦養成　京橋區西紺屋町京橋看護婦會にては今回出征軍人遺族及び家族にして看護婦希望のものに限り卒業まで無報酬にて養成する由

運動界

●富士登山案内　東京より御殿場まで鐵道車賃壹圓拾錢、御殿場より須走まで鐵道馬車賃金貳拾錢、須走より馬返まで馬賃金三拾五錢にして須走を午前五時に發足すれば午後一時半に頂上に達し同五時二十分に須走へ歸着する豫定にて案内賃拾貳錢、辨當料拾五錢、石室一食料拾六錢五厘、同一泊木賃拾五錢、草鞋杖代拾二錢五厘等なりまた須走の宿料は上壹圓中七拾五錢、下五拾錢、並飯料は貳拾錢と參拾錢の二種あり右は須走の御師大米谷大住と云へる帝國大學幷に學習院の指定旅舍より報じ來れるものなり

◎納凉の場所　北方には王子の瀧、小石川音羽の瀧、西方には角筈十二社及び四谷津の守の瀧、南方には大森、鮫洲の海邊目黒の瀧、芝濱の海水浴東方にては向島の有馬温泉等に遊ぶも面白からん其他愛宕山、芝公園丸山、麹町山王臺及び日比谷公園心字池々畔等も亦納凉に適す

●一日の避暑地　一日に往復の出來る東京附近の避暑地としては稲毛、幕張、船橋などこそよけれ途中鴻ノ臺に立寄りて凉を取るも好し亦た學生などは朝のうち市川まで徒歩しお互ひの健脚を誇るも一興ならん

女靴の弊害

最近米國より歸朝したる人の話に依れば現今女學生の用ゐつゝある踵の細く且つ高きものは米國に於ては僅かに嫁入前の娘輩や交際社會の人が使用するのみにて學生の如きは幼少の頃より二十歳前後に至たるまでは運動の必要上皆な男兒と同様なるもの若しくは「より低く平たき」ものを用ゐ決して細く高き踵の靴を使用せずと云へり

女子の新職業　總振假名附　定價[illegible]錢郵四錢

本書は最近の調査に係る女子のあらゆる職業即ち◉造花◉刺繍◉編物◉寫眞◉理髪◉裁縫等を始めと[illegible]◉通信事務◉鐵道事務員◉貯金事務員◉郵便局事務員◉保險會社計手◉勸業銀行◉帳簿係◉日本銀行紙幣係◉電話交換手◉[illegible]◉小學敎員◉中學敎員◉體操敎員◉[illegible]◉裁縫敎師◉保姆◉看護婦◉産婆◉女醫◉新聞記者◉速記者◉内職等の各方面に渉り或は求職の方法或は被傭の手續或は賃銀或は俸給或は各業の現在に於ける狀況及將來に於ける盛衰の豫測等を丁寧親切に說述したるものにして今後益發達すべき女子職業の[illegible]なる案内也

五十嵐越郎編　標註並評語入　新撰美文範　參拾五錢　郵稅四錢

本書は古今才媛の傑作中現今の女子が學んで以て模範とするに足るべきもの數十篇を精選收録したる者標註評語を極む

家庭雜誌　家庭之友　毎月一回三日發行

●最近號○第三卷第四號（七月三日發行）定價壹冊郵稅共六錢●壹ケ年（十二冊）郵稅共割引前金六拾錢切手代用一割増

第壹卷合本　第貳卷合本　總クロース金字入●孰れも誤謬を●訂正特に改刷●郵稅共各冊七十錢

堺枯川著　家庭の新風味　全部六冊合本　壹圓郵稅八錢

堺枯川著　家庭夜話　全二冊合本　定價一圓郵稅八錢

羽仁もと子著　家庭小話　定價金貳拾五錢郵稅二錢

本田增次郎著　泰西女訓　全壹冊定價四拾錢郵稅四錢

落合浪雄修　婦女小訓　全壹冊定價四拾錢郵稅貳錢

加藤雄譯　女子立志編　全壹冊定價郵稅不要

眠柳譯　西洋化粧法　全壹冊定價四拾錢郵稅四錢

英國某伯爵夫人著　西洋化粧法　全壹冊郵稅共拾錢

家庭娛樂　西洋獨占ひ　全一冊定價金三拾五錢郵稅四錢

山田美妙修　御婦人殿下　全一冊定價不要

本田增次郎譯　黑馬物語　全壹冊定價四拾錢郵稅四錢

大下藤次郎著　水彩畫階梯　全一冊定價四拾錢郵稅四錢

少年園編　こども　全六冊各冊定價二拾五錢郵稅切手代用

堺枯川著　我家の犬猫　全壹冊定價八錢郵稅貳錢

本田增次郎著　犬の世界　全壹冊定價拾錢郵稅二錢

東京本郷駒込西片町十　元版　内外出版協會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●滿洲遊說日誌（一）
（奥村五百子刀自一行）

六月二十九日　晴

●總裁宮殿下の御使として差遣はされたる櫻井家令並に岩倉會長を始め各役員諸氏百餘名に送られて此日午後零時三十分新橋驛を發す、新橋驛を發するに臨みて萬歲の聲起ると共に刀自は豫て用意の國旗を打ち振りて是れに應ぜられ最も盛んに最も勇ましき首途なりき

●品川驛には毛利理事出迎へられ刀自は停車中種々談話を交換されたり、此時前面の山上には數十名の少年少女打集ひ手に〳〵國旗を打揮りて一行を送りぬ、刀自また例の國旗を車窓より出して是れに應答したり

●是れより先き汽車品川を通過の際は必ず車窓より半身を外に現はし居るべしと佐々木伯爵夫人より御内命の趣き刀自へ注意ありたるを以て刀自は仰せかしこみ新橋より品川驛を過ぐるまで端然として車窓に半身を現はし高輪御殿を遙拜して打ち過ぎたり、是れ一行の身に餘まる光榮なり

●新橋梅田間の各停車場には一行を見送らる、會員多かりしが殊に横濱、静岡、濱松、名古屋、京都等は最も盛んにして受けたる名刺のみにても二百五十餘枚の多きに及びぬ、また沿道見送人よりの寄贈品は山なす許りに多かりしが刀自は是れを戰地に持ち行きて兵士に頒たんとて悦んで受納されたり

六月三十日　雨

●午前六時五十三分梅田驛（大阪）に著す始め一行は宇品より乘船するの豫定なりしに俄かに模樣替となりて神戸港より乘船することゝなりたれば此所に下車して評議員廣岡淺子氏の邸に入る

●この日は此地に滯在し同行者の一人熊本の田代治子氏の來阪を待ち合はすとし午前一行打ち連れて大阪支部に至り遺族の被服裁縫の狀況を一覽したるが其の事業の進歩發達實に一驚を喫する許りの好成績なりき、廣岡氏に宿る

七月一日　晴

●この日午後に至り田代氏來阪、こゝに於て一行全く揃いたるを以て明日の乘船を一刻千秋の思ひにて待受けたり

●刀自はこの間も席あたゝまるに遑なく四方に奔走して會務擴張に力めらる、この夜また廣岡氏に宿る

七月二日　晴

●大阪支部の職員諸氏に送られて午前九時三十五分梅田驛を發し神戸に向ふ、神戸驛に着するや直ちに支部長の招待に依り知事官舍に於て晝餐の饗應を受く

●晝餐後壬生騎兵大尉に面會し乘船に就て種々の打合せをなし午後四時米利堅波止場より兵庫支部の職員其他の諸氏に見送られて河内丸に乘込みたり

●乘船に際し出發を祝するの電報を寄せられたるは岩倉會長を始め毛利理事、清浦評議員、中山評議員、堀内顧問其他數十氏なり是れ吾等一行の深く感謝する所なり

●河内丸の事務長杉本第五郎氏は刀自と相識の間柄とて萬事親切なる取扱ひを受け一行は上等室を貸與せらる、便乘者は一名の英國人あるのみ船は六千噸以上にして恰も疊の上にあるが如く少しも困難を感ぜず一行何れも船中反つて食事の進むを覺ゆる位なり

●杉本事務長は紀念の爲めとて一行を甲板上にて撮影したり

七月三日　晴

瀬戸内海の風景を詠めつゝ愉快に船は進行し夜の間に門司に碇泊せり

雜誌の新聞

●**女學生に對する希望**　吾邦の女子は其の體格に於て歐洲の女子に比すれば大いに見劣りせらる多くの歐洲女子は嘆美すべき體格を有して居る吾邦の女子も今後は成べく身體を善くせねばならぬまた體格健康に次いで必要なるは粧飾である女子は人生の花である不作法な衣服の着方をして肩で風を切つて歩るくなどは宜くない併し粧飾は必要なるも奢侈は忌むべきである夫れから學問は女子の容貌に影響することが少なくない男子は容貌など何うでもよいが女子に取りては容貌は大事である而して智識の不十分な女は如何に顏の道具立が十分でも何所か間抜けに見ゆるものである西洋では美人の要素として眼を第一に擧ぐ眼はその精神を表現するものであるからだ故に智識ある女子は其の眼に聰慧の精神を表現す眞に美人たらんと欲せば智識を研磨して其の容貌に聰慧の表現を爲すに至るを要す次に女子に取りて學問よりも一層必要なのは技藝である就中繪畫音樂等は最も女子に適した技藝である女子にして十分に其の長所を發揮せんとせば是れに向ふを最も可とする自分は當今の女學界にお轉婆なる米國婦人的風氣の流行するを見て嘆いて居るものである若し外國を摸倣するならば宜しく英國の婦人を手本として貰らいたい（女鑑七、井上哲次郎）

●**賤業者子女の教育**　賤業者の子女を學校に入れるとに就いて大分議論があるやうであるが官公立の學校では何處の學校であらうとも其の父兄の職業身分に依つて入學を拒むことが出來ない子女にして入學に要する事情さへ備へ居れば當然入學すべき權利を有て居るものである官公立學校は良家庭の子女のみを入學させて之れを教育するものではなくて國民一般の女子を教育するものであるから良家庭は一般公衆の爲めに此弊害を忍ばねばならぬと同時に官公立學校に於ては入學を拒絕すべき權利を有たぬのである然るに私立の學校は之れと趣を異にして居る此撰擇の自由を有して公の費用を仰かぬ代りに見童生徒の撰擇の自由に對して父兄たるものは彼是論ずべき權利を有せぬものである故に私立の學校では此撰擇自由を利用して官公立學校が企及し能はざる底の安全なる教育を施さんことを望むものである學校にして若し此撰擇自由を利用し能はずと云はば教育上私立學校に望む所の大半は失はるゝものであると思ふ（教育時論七二七、社說）

●**避暑の代りに迎暑せよ**　一體此頃は學生が横着になつて親の脛を嚙りながら避暑の旅行のと金錢を濫費して藪な事は覺へぬ惡風が吹き荒んで居る平時に在りても暑中には歸省して男女學生共に父母を慰め父母を勞はり相與に家事の手助をして家庭の情味を味ふがよいのである況して戰時の今日に於ては出征者の勞苦に對しても太平樂を言つてブラ〳〵遊んで居ては相濟まぬ貴賤貧富の別なく男女長幼を問はず苟も學生生徒として家に歸らば男は米でも舂き薪でも割り女は水でも汲み洗濯でもし飯も炊くべし裁縫もすべくドシ〳〵働くがよい假には避暑の反對に迎暑をもすべし暗器のやうな歌ばかり讀むでハムモックで晝寢をして暮すやうな惰弱なとては行かぬ（新公論六、高島平三郎）

◎第八回作歌募集

△歌題　朝顏

△撰者　某公爵夫人△作歌數一人一題三首以下△期限七月三十日限り△優等の作歌は本紙に披露し高點者五人に貴婦人自筆の短冊を進呈す

◎第壹回短文募集

△題　納涼

△文體隨意

△撰者　松蔭同人△一行十八字詰十五行以下端書に認めたるものは採らず△期限　七月三十日限り△優等の作は本紙上に披露す可し

編輯主任　文學士　下田次郎氏
女子教育　第二卷第四號　定價十五錢
我か國婦人雜誌中最も程度高く讀みごたへあるもの
發行所　東京市神田區錦町一丁目十番地　明治書院

產科婦人科專門病院長　澁遊光次先生講述
衛生講話　婦人の友
一名姙婦の衛生　姙娠安產育兒の要訣　紙數三百頁　正價金五十錢　郵稅六錢
本書は姙娠論の著として有名なる澁遊先生が多年の經驗に基づき婦人の平生結婚中、出產前及び產後婚姻の發生に至る迄細大漏さず加ふるに小兒養育法を以てし書中を五論百數十項に分ち最も親切談話的に講述し一々平假名を附しあれば如以なる人にも解し得べく衛生を重んぜらるゝ家庭は勿論婦人として缺くべからざる最良の友なり

○家庭衛生新書　岡部醫士著　四十五錢　郵稅六錢
○普通臨床看病法　關藤英次郎著　正價卅錢　郵稅四錢
○姙產婦の心得　一名安產育兒の法　正價三十錢　郵稅四錢
○普通姙娠論　楠田謙藏閲　姙娠の攝生　正價六十錢　書封送十錢
○情育觀　一名男女交際の栞　一名（兒を設くる法）附り小兒養育法　瀬川博士閲　楠田謙藏閲　四十五錢　郵稅六錢
發行所　神田鍛冶町　電本九四九　誠之堂書店

◀夏季進物に最適品▶
新刊
內務省衛生試驗所技師　藥學士　慶松勝左衛門君著
家庭衛生　衣食住
大和綴上製　優美口繪挿入　定價金五拾錢　郵稅金拾錢
▲衛生は夏季の最大要務なり本書は家庭衛生に必要なる衣食住を理論に基き最も平易に說明せし者にて飲食物篇には調理法、食料撰擇法、飲食物の注意、防腐劑、衣服篇には着服の注意、廣帶、袴、帽と履、夜具、不飲食物防腐法、光線、空氣、化粧料、住居篇には土地と病原菌の關係、井水、雨水、淨水法、沐浴、室內の關係より人工換氣法、便所の防具、消毒法其他家事一般の衛生を最も有趣味に記述せしものにて人々の夫人令孃保姆教師の必讀の良書なり。
發行所　東京市本鄉區森川町一（電話下谷二四一四番）　育成會出版部

めりんすゆうぜん
人形町通住吉町　赤のきん　おざきや

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

世界のしんぶん

◉市醫　スキツル國にてはチユーリヒ市に於て新奇なる醫療制度を施かんとしつゝある由にて、一人毎に二圓を拂へば總計二十万圓の金を得年俸五千圓の醫師四十人を雇ひて人民に無料治療をなさしめんとするなりと結構の企といふべし

◉郵便切手　昨年末迄に世界各國にて發行せられたる切手の種類は現今世に知られたるもの丶みにて一万九千二百四十二種ありといふ是内英國の發行二百五種、英國殖民地及保護國にて五千七百十一種其他の諸國は合して一万三千三百二十六種なり、此總種類の内歐洲發行のもの四千八十九種、亞細亞洲の分三千六百二十八、アフリカ洲の分四千五種、アメリカ洲の分六千九十五種、南洋諸洲の分一千四百二十五種なりと

◉鰻には二個の心臟ありて其一づは鼓動一分間に六十回他は一分間に百六十回なりとぞ

◉太陽の熱力　科學者の調査によれば二十町歩を照す日光を一點に集中する事を得れば其力にて世界中の諸器械を動かすに足るべしといふ

◉カナダの森にある樹木を製して紙となす時は現今の消費の割合にて全世界に供給して八百四十年間程續くる事を得べしと

◉戰爭後の大雨　米國合衆國政府にて調査せる所によれば近來鎮砲、大砲及榴彈の發明後に起りたる大戰爭の後には必ず大雷雨あるを常とせり、是火藥の爆發が天象の變化を來す直接の原因なりと

◉頭痛の樹木　極東の地方に一種の樹木ありてアカシヤの類なるが夕暮に其葉を閉ぢ其枝は豕尾の如く卷き上るなり然るに此の木の睡眠中人ありて之に觸るゝ時は突然葉を開き枝を彈く、此の如き事數度に及べば其働漸次激しくなり行き、遂に一種の嘔吐を催さしむる氣體を吐き人之を吸入する事數秒なれば烈しき頭痛を起さしむといふ

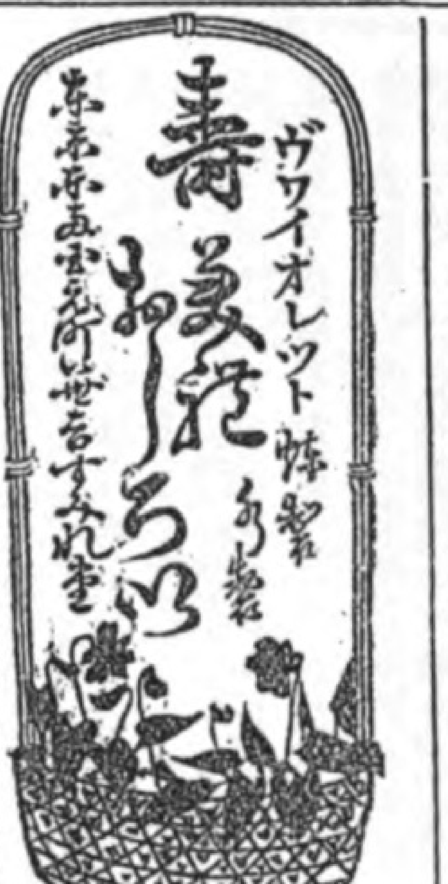
村井弦齋著　中元の御進物に適す

實地經驗　台所重寶記

定價八十錢　郵税十錢　臺灣清韓三十錢

●一升の酒を買はんよりは此の書一冊を買ふに如かず

發行　東京麴町區有樂町二、報知社出版部　發賣　東京銀座通新橋際　新橋堂書店



●ねりおしろい定價大瓶廿錢小瓶十二錢●水おしろい定價大瓶廿五錢中瓶十五錢小瓶十二錢

すみれ白粉は歐米諸國に專ら流行する香料及弊店特調の化學的炭水素の新成蹟鉢等を以て配劑しあるを以て皮膚を艷麗ならしめ芳香馥郁として長時間保續するの特性あり

定價（綠藍紅彩蝶番ひ錫詰六錢五厘 ホツクス入參錢袋入壹錢）

壽美禮洗粉は弊店新製の原料を用ひて製せしものなれば朝夕此洗粉を用ひ給へば漸々皮膚の色を白くし美くしく艷を出しきめをこまやかに常に御肌を清らかにす

●第五回内國勸業博覽會褒狀及賞牌受領

製造本舖　東京市東兩國兩國橋際元町　伊勢吉壽美禮堂謹製

販賣處ハ全國到ル處小間物店化粧品店賣藥店洋物店其他各勸工場各劇場運動場等ニ有

教育學術研究會編纂

教育辭書

洋裝全五冊　定價金五圓　小包料金卅錢、上製料六十錢

特價金四圓　九月中（製本料送料別）

日本の家庭

七月十日發行　第五號　毎月一回發行

▲よくつれて……（口繪）
▲あめかぜ……記者
▲薔薇の蔓……大村仁太郎
▲一女子に答ふ……中島德藏
▲暑中の子供……山本きよ子
▲梅雨つれ〴〵……三宅花圃
▲とりつかうか ひツつかうか……いうせむ
▲當世奥様氣質……中島きよ子
▲元祿時代の聟選び……柴田常惠
▲滊さん……沼田笠峯
▲此機に御注意……天籟道人
▲まといの時……今西薫公子
▲和歌……三宅花圃選
▲紅の話……嬌陽 幽泉
▲どちらが羨ましいでしようか……かさみれ
▲男子に與ふる書……劉芳子
◉婦人の眼に映ずる若き男子
◉輕薄なる女性的男子を排す
◉眞に家庭の意義を知れりや
▲てがる料理……ゆふづき
▲料理の切形……石井泰次郎
▲高千穗小學校▲新刊紹介

一冊代價金九錢六冊五十錢

教師及父兄の讀物

學習院教授　大村仁太郎先生編述

教育寓話　我子の美德

▲最新版發賣

大村教授に『我子の惡德』を編述してその價値を社會に問はれしに好評嘖々四月を出でずして既に拾版を重ぬるに至れり。而も『惡德』は學校家庭の裏面を描寫したるもの、裏面より警告諷刺せられたる表面が、如何なるものにして、且つ如何にあるべきかは、實にこの『我子の美德』によりて表彰せらる。されば彼れと此れとは消極と積極の對象にして、互に相並びて以て學校及家庭教育の改善を進捗すべきものと言ふべく、一を反射鏡とすれば一は正面鏡、一を陰翳とすれば一は光明。『我子の惡德』を讀みて反省せしものは、必ず又本書を繙いて兒童を導かざるべからず。文章は平易輕妙。

洋裝金壹冊　定價金七十錢　郵税金八錢

發兌　東京神田區表神保町二　同文館　大賣捌　大阪市東區備後町四　寶文館

夏向かみの毛の養生

東郷花　其他流行花東　花簪盛籠製造

本郷三丁目三十一番地　東郷造花店

夏期斬新材料

舶來薄絹　シホン　各種

夏向きの造花材料として最も適當に且つ眼新しき本品を發賣致候へば御入用の方は本雜誌名を書き添へ郵券五錢を送られ度し見本及本品にて製作せる造花の寫眞版共進呈可仕候

日本女子大學校御用　共立女子職業學校御用　日本女子美術學校御用

造花器械　造花用繪具各種　摘み細工原料　花簪原料　根掛原料　刺繡用金絲平金類　和洋リボン各種

定價表御入用の方はがきにて申込の事

東京日本橋區橫山町一丁目十六番地

天野卯兵衛商店（電話浪花一六四三）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京市麴町區錢瓶町（常盤橋內）
日本興業銀行
電話本局（三、三〇〇番 四一番 （特）三七番 一〇二番）
一定期預金　年五分
一當座預金　日步七厘
一特別當座預金　日步一錢

東京市日本橋區通一丁目
合名會社 森村銀行
電話（特）本局六七三番
定期預金 六ヶ月以上 年六分
當座預金 百圓に付日步 壹錢
特別當座預金 同 日步 壹錢參厘

資本金千八百萬圓
東京京橋區木挽町
株式會社 十五銀行
電話新橋（三〇〇番 一五〇〇番 一九三三番）
同日本橋區新乘物町
同 日本橋支店
電話浪花（一九〇一番 三二七四番 三五〇八番）
一定期預金 六ヶ月以上年五分
一當座預金 日步七厘以下
一特別當座預金 同 壹錢

東京馬喰町
長瀨富郎製造

ドクトル佐伯理一郎著（總ふりかな附）
拾壹版
普通 看病學
正價金六拾八錢▲郵稅金拾錢
ドクトル佐伯理一郎譯（挿圖百卅七）
袖珍
戰時平時 救急看護
正價金拾五錢▲郵稅金貳錢
下平文柳著（總ふりかな附）
二版
私 看病法
正價金五拾錢▲郵稅六錢
下平文柳著（總ふりかな附）
◎看病法修業用
拾版
人體 解剖生理
正價金五拾五錢　郵稅六錢
發兌元　東京市本鄉區龍岡町三十四　吐鳳堂書店

ホワイト裁縫ミシン使用法夏期講習會
一本會はミシンの使用法及附屬品の應用並に器械の分解法を講習す
一開會中會員一名にミシン一臺宛を貸與す
一開期八月十七日より三十一日迄◎申込期日八月十日迄◎定員一百名を限る
▲規則書入用の方は郵券二錢
東京市芝公園七五號地
日本女子美術學校內
ホワイト裁縫ミシン使用法
夏期講習會

◎牛豚肉販賣及西洋料理◎
品質佳良の肉類廉價に販賣候
配達は迅速に且つ正確に致候
滋養と風味の西洋料理調製候
西洋料理出前は格別相働き候
米店は精撰の白米廉價販賣候
御注文は電話又は葉書で願候
小石川表町廿二番地　電話番町六五九　西川本店
本鄉區駒込東片町五番地　電話下谷二二七一　西川支店
小石川表町十一番地　電話番町一四六一　西川洋食店
小石川表町十八番地　米穀商　西川嘉門

消毒防臭劑
デシン
（原名デシンフエクトール）
奏効確實　用方簡便　無毒安全　價格低廉　藥店ニ有

壽ゞ菊
大和屋

東京日本橋區長谷川町
卸部 美濃磯本店
電話浪花二八五九番
小賣部
本鄉區本鄉五丁目
美濃磯本鄉支店
電話下谷一四一五番
淺草區諏訪町
美濃磯淺草支店
日本橋區佐內町
美濃磯佐內町支店
神田區小川町
美濃磯神田支店
深川高ばし際
美濃磯支店
芝區新櫻田町
小田商店
牛込區神樂町一丁目
伊澤商店
四谷區傳馬町一丁目
伊澤支店

醫院案內（順ぐりの事）

東京神田錦町參丁目電本七一五
山口眼科醫院
院長醫學士 山口秀高
診察午前 入院午後 隨時

東京神田區美土代町三丁目十七番地
內科一般
午前宅診 午後往診
板垣亨
電話本局貳千九百七十番

內科特に胃腸病診療
體格檢查運動療法
院長ドクトル 川瀨元九郎
麴町區平河町二十八番地
電話番町八百貳拾貳番
川瀨醫院

院長 醫學博士 榊順次郎
副院長 醫學士 久保德太郎
婦人科產科榊病院
東京麴町區三番町廿三（電話番町三九五）

犬猫診察
病苦に惱む可憐なる無告の諸動物を治療す
麴町區飯田町五丁目二十六番地
（國學院橫通り）
診察午前
本院 入江家畜病院
本鄉區湯島新花町九十九番地
（切通公番より南半町）
診察午後
分院 本鄉家畜病院

院長醫學士 鳥山南壽次郎
午前診察 午後往診
京橋區鎗屋町十一番地
電話新橋千七百四十六番
鳥山內科院

神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）
內科病特に腦脊髓神經疾患
院長ドクトルメヂチーネ 峰秀世
峰內科醫院

耳鼻咽喉科診療
淺草區向柳原壹丁目貳番地（左衛門橋通櫻町）
中村醫院

淺草區（厩橋通り）北三筋町五十九番地
白木耳鼻咽喉科院
診察時間 午後三時より六時迄

小兒病診療
宅診午前 往診午後
淺草區福井町貳番地
醫學士 內田愼太郎
◎電話下谷七一八番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎特約販賣店
◎東京堂 神田區表神保町三番地
◎東海堂 京橋區銀座四丁目

洗用ワツセル
●此ワツセルは油じみ油あか如何なる汚れでも揉ずに必ず落る石鹼曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります
●用法は湯一升に二匁(小杯へ半分餘)の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し揉ずに置き後湯又は水にて洗へば自然に脫ますシヤツの如きは(拾貳匁入)一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髮は一匁五分を一升餘の湯に溶解してかもじを洗ふ川に揉ずに洗べしたれば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具を拭き掃除にも有効です
定價 拾貳匁入 金拾五錢 六匁入 金八錢 袋入三錢

芳香御肌洗粉ワツセル
●此肌洗粉ワツセルは當時歐米各國貴族社會に流行する芳香類を加味し製造せしものなれば朝夕御使用の方は香氣馥郁として肌持晴々す又おしろいしたを用ひすして御化粧が出來ると妙なり
定價最上 金七拾錢 金貳拾錢 普通 五拾錢 六錢 參拾錢 三錢 拾七錢
東京市京橋區三十間堀三丁目
英國製ワツセル日本一手販賣元
御肌洗ひこ芳香ワツセル製造元
三友商會 電話新橋千七百十□

(ラクダ印)

(麝香石鹼)
ラクダ印麝香石鹼ハ高貴なる麝香に愛すべきスミレの香料を多量に含むが故壹度使用せバ其香氣身体ハ元より手拭タオル ハンカチーフ及び浴後のゆかたに至る迄うつり香いたし五日間ハ馥郁としてかほりを失なはざる効力ハ舶來品にも未だ見ざる一大特點を有す
〇定價大形廿錢 小形拾錢 熱心勉強なる和洋小間物商 化粧品店にて必ず販賣せり
近來類似品有「ラクダ印」と井上に御注意
東京本石町三丁目十八番地 芳香藥種問屋 井上太兵衛

中瓶 壹本拾五錢
二八水は進歩せし化粧水の隨一なり
效能は世間已に定評あり
花王石鹼本舖
東京馬喰町
長瀬富郎製品

夏羊ゑり 帯揚 元祿模樣格子絞り
別染新柄 浴衣地 小紋島柄格子大中形有松絞り優等品類多し
○夏肩掛 尾花ショール○レースショール
○染模樣絞り形帯片側地○裾模樣け出し
顏肌美白 チエリー 小瓶拾貳錢 香入袋入參錢
高等洗粉 有効受賞まけ入 すゝめ形ゑり治形發賣元
新橋 竹川町十二番地 電話新二〇二七 本店 ゑり治
神田 表神保町壹番地 電話本局九五二 支店 ゑり治
新橋際 帝國博品館內階下 ゑり治出張店

未荅庵矯菓著
實驗和洋菓子製造法
本書は著者が祖先以來多年間洋菓子百余種と和菓子三百卅余種の製法を實驗を得たる製菓法中特に選み之に插畫を加へ懇切叮嚀に說明をし家庭に於て夫人令孃方が容易に菓菓を手輕に調製したるものなれば一讀のもとに良書にして又製菓家及び同業者の良參好書なり
●插書十數葉入 紙數四百頁 洋裝美麗全一冊 正價六十五錢 郵稅金六錢
即席惣菜料理 赤堀峯翁 赤堀菊子 共著 洋裝全一冊 正價金三十五錢 郵稅金四錢
家庭十二ヶ月料理法 赤堀峯翁、赤堀峯吉、赤堀菊子共著 和裝全二冊 正價一冊金五拾錢 郵稅一冊八錢
增訂女子手紙文 華族女學校教授小野鵞堂書 和裝全一冊 正價金四拾錢 郵稅四錢
◎圖書目錄入用の方は申越あれば呈す
◎發行所 東京日本橋區通一丁目 電話本局四一四番 大倉書店 賣捌 各書店

(貴婦人令孃向)
避暑旅行最必要なる履物
元祿模樣花緒附 千代田草履 貳圓以上
東草履 壹圓以上
志喜島草履 壹圓七拾錢以上
江戸子草履 壹圓三拾錢以上
朝日草履 ハナマ表附 壹圓五拾錢以上
南部製重草履 壹圓以上
右之外御付女中方最必要用經妙なる上草履あり特別廉價三四十錢位
右之品意匠斬新珍品澤山取揃有之市內ハ御報次第員店可伺候遠方ハ御申越次第引換小包ニテ發送可申上候
登錄商標 香
東京市淺草區茅町貳丁目 電話下谷千百九十二番 香取屋本店

◎愛國婦人圖書閲覽所
御婦人
最も注意すべき家內の淸潔は如何にして成効し得るか
デシン
を使用せよ本劑は日本で出來た殺菌の消毒劑洗濯を兼ねた唯一の消毒劑である夏季の衛生に最必要
使用を怠るな本劑の無き所傳染病と臭氣は來らん用法安全
各藥店にあり
弘報堂 京橋區南大工町　博報堂 京橋區八官町　一星社 日本橋區上槇町　廣告堂 日本橋箱崎町　萬年社 京橋區宗十郎町　栗原九助 京橋區日吉町　正路喜社　帝國通信社

新刊 七月十三日發行 世界一品 他と比較して本帖の眞價を知られよ
(七月十日發行) 征露紀念第四軍寫眞帖
川村大將題字 ▲第四軍戰鬪地圖 ▲第四軍戰史
◎第一軍第二軍第三軍寫眞帖共精巧第一との激賞を蒙れる本社は玆に又野津軍寫眞帖を發行す
◎口繪光澤寫眞版四十頁 四頁を始め大孤山上陸より
岫巖 析木城 分水嶺 遼陽 沙河 奉天 戰爭激戰の秘密寫眞悉く網羅し尚野津大將各師團旅團長其他勇士の肖像掲載
◎第四寫眞は大本營秘藏 湯川第十師團副官 山本 皆川顧問等の臨戰寫眞は皆本帖に集る
悉く精巧珍奇第四軍寫眞の精華 眞に萬世の紀念
廿錢 郵税貳錢 東京麴町區有樂町 實業之日本社

(寫眞帖增刊) 日本海戰 百景 悉く網羅
空前絕後 日本海大海戰
東郷上村片岡三提督題字 ◎附錄 大海戰鬪地圖
◎先に卒先大海戰寫眞帖を發行せし本社は今回關大監 秀島中佐 山本造船小監 神田少佐より日本海大海戰寫眞百數十枚を寄贈せられ更に本帖を發行する依
口繪寫眞版四十枚 光澤寫眞四頁
◎全部悉く日本海實戰大活劇寫眞にて敵對馬沖に現出の珍景 彼我艦隊初對抗の壯觀 彼逃げ我追ふの大奇景 敵を元山沖に包圍する偉觀
猛火集中敵艦沈沒 敵將降伏等を始め日本海實戰寫眞の精華悉く本帖に集まる
▲眞に空前絕後の紀念寫眞帖▼買ひ後れて世界一品を逸する勿れ
價廿錢郵税貳錢
東京麴町有樂町三丁目 實業之日本社 賣捌 各地書店

戰勝紀念ピン

金銀の地金に七寶の彩色うるはしく圖案は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠に成れるもの世の紳士淑女たちは各その胸間に飾りて此の千載一遇の皇軍大勝利の紀念としたまへかし。
定價 純銀製 一個 金三十五錢以上 (餘は御好み次第迅速調製可仕候)
手釦は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠を凝らしあれば世の紳士たちは洋服に飾りて皇軍大勝利の紀念としたまへかし。
此圖案の外陸海軍連勝にちなめる斬新の意匠を凝らしたる提物澤山出來致居候
宮內省御用達 東京市下谷區池の端仲町 玉寶堂 電話下谷 特九六五番 一二四四番

(明治三十八年七月廿日發行(每月五日二十日二回)
發行兼印刷人 山澤俊夫 編輯人 手島益雄 發行所 愛國婦人會內
印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人第八十三號附錄

明治三十八年七月二十日發行（每月二回五日廿日）
明治三十五年三月二十七日（第三種郵便物認可）

評議員
參謀次長長岡外史夫人 長岡芳子

山梨支部幹事
石原登代子

岡山支部幹事
東閣輝子

發行兼印刷人 山澤俊夫 編輯人 手島益雄 發行所 愛國婦人會內愛國婦人發行所
印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 株式會社 秀英舍第一工場

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN